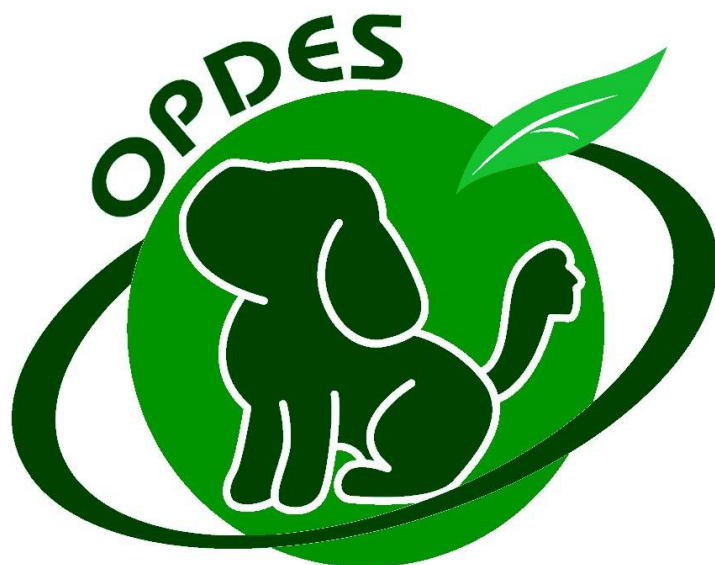


OPDES ノーズワーク 規程書



令和 7 年 7 月 23 日 制定
令和 8 年 10 月 19 日 改正

第 1 章 - 目的と概要

セクション 1.1 - 目的

OPDES ノーズワークは、犬がその優れた嗅覚を用いてアーティクル（検索対象物）を探し出し、発見したことをハンドラーに伝えるという課題に基づいたスポーツである。検索は、さまざまな環境下で条件を変えて実施される。

ノーズワークは、犬にとって非常にやりがいのある作業であり、最も得意とする嗅覚能力を発揮する機会を与えると同時に、犬とハンドラーの信頼関係を築き、強化することができる。また、チームとして課題を達成するためには、犬とハンドラーが互いの反応を読み取る必要があるため、ハンドラーにとっても犬を客観的に観察する良い機会となる。

OPDES ノーズワーク競技会は、すべての犬とハンドラーに対し、楽しく安全なチーム活動を提供することを目的とする。

—

セクション 1.2 - 概要

ノーズワークでは、犬が特定の匂いを認識し、それを発見した際にハンドラーにアラート（知らせる行動）を行う。アラートの方法は、ハンドラーを見る、足でタッチする、吠える、鼻や体で指し示す、座る、伏せるなど、あらゆる行動が認められる。

検索は、ハンドラーが審査員の合図で指定の場所から犬をスタートさせることで始まる。ハンドラーは犬の検索態度を観察し、必要に応じて検索を誘導する。犬がアラートを行ったと判断したら、ハンドラーはその旨を審査員に伝える。

ノーズワークには、以下の 2 つの検索環境がある：

- ・ インテリアサーチ

屋内の検索エリアに設置されたオブジェクト（机、椅子、柱など）の上または内部にアーティクルが隠される。

- ・ エクステリアサーチ

屋外の検索エリアにおいて、アーティクルの匂いがオブジェクトの上または内部に隠

される。犬は空気の流れ、気象条件、自然環境の刺激がある中で、匂いを見つけなければならない。

セクション 1.3 - 搜索環境とレベル

ノーズワークは、以下に定義する複数の搜索環境で実施される。それぞれの環境は、犬の搜索能力を多角的に評価することを目的とし、独立した難易度レベル（以下「レベル」）に基づいて構成される。

<搜索環境>

1. インテリアサーチ（屋内搜索）

屋内での搜索。屋内とは、四方が壁に囲まれ、屋根があり、外気の流入が遮断されている空間とする。家具や日用品などが配置された空間においてアーティクルを搜索する。

難易度レベル：レベルに応じて障害物の配置、匂いの遮蔽度、空間の複雑性などを調整することで、段階的に難易度を高める。

以下のレベルが設定されている。

- （1）ノーズワーク 1 度（NW1-in）
- （2）ノーズワーク 2 度（NW2-in）
- （3）ノーズワーク 3 度（NW3-in）

2. エクステリアサーチ（屋外搜索）

屋外での搜索。屋外とは、四方が壁に囲まれておらず、自然の外気の流れが遮断されない空間とする。建物の外周、庭、駐車場などにおいて搜索を行う。天候や風向きなどの自然条件が犬の搜索に影響を与える。

難易度レベル：レベルに応じて、搜索エリアの広さ、地面の素材、障害物の配置、匂いの遮蔽度などを調整することで、段階的に難易度を高める。

以下のレベルが設定されている。

- （1）ノーズワーク 1 度（NW1-ex）
- （2）ノーズワーク 2 度（NW2-ex）
- （3）ノーズワーク 3 度（NW3-ex）

セクション 1.4 - 参加資格

- ・血統書の有無にかかわらず、すべての犬種が参加できる。
- ・ビギナー1・2：会員・非会員問わず、すべての人が参加できる。
- ・ノーズワーク 1 度・2 度・3 度：OPDES 会員、またはその家族のみが参加できる。
他人の所有する犬での参加も可能だが、その場合、犬の所有者およびハンドラーの両方が OPDES 会員でなければならない。
- ・各レベルの参加条件は、第 2 章「レベル構成とタイトル」に記載する。
- ・発情中の牝犬も参加可能。ただし、事前に運営事務局へ報告すること。発情犬の出場順は、すべての競技終了後とする。審査員は、レベルによって検索エリアの形状変更を行った場合、発情犬のために内容を記録しておくこと。
- ・痛みを伴う可能性のある疾患、包帯・テープ・縫合糸などの医療処置が施されている犬は、出場できない（年齢や加齢による疾患は一般的にこれに該当しない）。
- ・審査員が痛みの兆候を認めた場合、競技の中止を命じることがある。
- ・身体に障害がある犬（例：四肢切断など）でも、痛みや不快感の兆候がなく、安全に検索できると審査員が判断された場合は参加できる。
- ・聴覚または視覚に障害がある犬も、ハンドラーが犬の安全を十分に確保し、かつクラスの要件を満たす場合には参加可能。ただし、ハンドラーは犬の検索を助けることはできない。

第 2 章 - レベル構成とタイトル

セクション 2.1 - レベル構成

ノーズワーク競技は、インテリアサーチおよびエクステリアサーチの 2 種目で構成される。いずれもレベル 1 からレベル 3 までの三段階を設定しており、共通の競技体系に属するが、競技環境および評価基準の観点から、それぞれ独立した種目として扱う。初心者向けの競技としてビギナークラスを設けている。ビギナークラスの詳細については、ビギナー規程書を参照すること。

セクション 2.2 - タイトル

ノーズワーク競技は、レベル 1 からレベル 3 までの 3 段階で構成されており、それぞれのレベルにおいて 2 回合格することで、該当レベルのタイトルを獲得することができる。NW1 および NW2 でタイトルを獲得した犬は、必ず次の上位レベルへと昇格しなければならず、以後、当該レベルの通常クラスには出場できない。

ただし、NW1 および NW2 には「リテイククラス (Re クラス)」が設けられており、タイトルを取得した犬も、練習や調整を目的としてこのクラスに出場することが認められている。Re クラスでの成績は、昇格やタイトル取得には一切影響せず、また席次も付与されない。

獲得したタイトルは、特別クラスにおいても有効とする。

セクション 2.3 - 各レベルへの参加条件

ノーズワーク 1 度 (NW1)

- ・満 1 歳以上の犬で、タイトルを取得していない犬が対象。
- ・NW1 タイトルを取得した犬は、Re クラスにのみ参加できる。

ノーズワーク 2 度 (NW2)

- ・ NW1 タイトルを取得した犬が対象。
- ・ NW2 タイトルを取得した犬は、Re クラスにのみ参加できる。

ノーズワーク 3 度 (NW3)

- ・ NW2 タイトルを取得した犬が対象。
- ・ NW3 には Re クラスは設けられていない。

※ Re クラス (リテイククラス)

- ・ 該当レベルのタイトルを取得した犬が出場可能。
- ・ 成績は記録されるが、席次は付かず、表彰も行われない。

—

セクション 2.4 - 各レベルの搜索要項

各レベルでは、搜索環境 (インテリア／エクステリア) の範囲、アーティクル数、設置方法、最大設置高さなどにより難易度が変化する。

搜索範囲 (推奨)

- ・ インテリアサーチ (屋内) : 4m × 4m 以上
スタートエリアの大きさ : 1.5m × 1.2m 以上を推奨
- ・ エクステリアサーチ (屋外) : 20m × 20m 以上
スタートエリアの大きさ : 1.5m × 1.2m 以上を推奨

レベル	アロマ数	設置高さ	標準制限時間
NW1	最大 1 個	地面から 15cm 未満	2 分
NW2	最大 2 個	地面から 30cm 未満	2 分
NW3	最大 3 個または数不明	地面から 50cm 未満	3 分

※ 標準制限時間は目安であり、実際の搜索時間は審査員が設定する。

セクション 2.5 - リテイククラス (Re クラス)

NW1 および NW2 には、それぞれに対応する Re クラスが設けられている。

Re クラスでは通常クラスと同一の審査基準が適用される。

参加資格は、該当レベルのタイトルを取得している犬に限られ、当該レベルの通常クラスには参加できない。

セクション 2.6 - 特別クラス

特別クラスは、障害（聴覚、視覚、歩行）を持つ犬や高齢犬を対象とする。

搜索範囲は通常クラスの 50%未満とすることが推奨されるが、それ以外のルールは通常クラスと同様に適用される。

参加条件

- ・ハンディキャップがある、もしくは以下の年齢基準を満たす犬。
- ・ハンディキャップの有無はハンドラーの判断で申告できるが、審査員が見て身体的な障害があることを認めることが困難な場合は、運動能力テストが行われることがある。
- ・特別クラスで取得したタイトルは、特別クラスでのみ有効。

年齢基準

犬の体重が 41kg 以上の場合 8 歳以上

犬の体重が 23kg～41kg 以内場合 9 歳以上

犬の体重が 23kg 未満の場合 11 歳以上

第3章 - ルール

OPDES ノーズワークでは、インテリアクラスおよびエクステリアクラスにおいて、「バーチ*」と呼ばれる精油アロマを使用する（ビギナークラスを除く）。これ以外のアロマは一切使用されない。

セクション 3.1 - 首輪、ハーネス、およびリード

会場内では、常に犬にリードを装着しておくことが原則である。使用が認められる装着物は、フラットバックル、スナップカラー、ハーフチョーク式首輪、そして引っ張っても締まらないタイプの標準的なバッククリップハーネスである。安全な移動のために必要と判断される場合には、足カバーや服の着用も認められるが、最終的な可否は審査員の判断に委ねられる。

一方で、チョークチェーン、スリップカラー、スパイク首輪、ジェントルリード、ノーブルハーネス、リードと一体型の首輪、金属製のリードや首輪、そしてフレキシブルリードの使用は認められない。

エクステリアサーチでは、首輪またはハーネスに 1～5 メートルの捜索用リードを装着して競技を行う。リードは犬がエリアの外に出ないように誘導するため、あるいは出てしまった場合にエリアへ戻すために用いられ、態度の矯正には使ってはならない。捜索エリアが完全に囲われている場合に限り、審査員の裁量でリードを外しての捜索が認められることがある。

セクション 3.2 - ハンドラー装着物

ハンドラーは、犬へのご褒美（トリーツ）を入れるためのポーチやファニーバックなどの補助用具を着用して捜索を行うことができる。また、時間確認のために時計などを着用することも認められているが、公式タイムは公式タイマーによって計測され、ハンドラーはこれに異議を唱えることはできない。

受付時には、参加レベルに応じた色分けのリストバンドが配布され、このリストバンドの着

用がブリーフィングおよび搜索エリアへの入場の条件となる。競技終了までリストバンドは外してはならない。

――

セクション 3.3 - アーティクルについて

使用されるアロマ（バーチ）は事務局が準備したものであり、所定のアロマオイルに一定時間漬け込んだものを密閉容器に保管し使用する。

アロマに直接触れる際は、使い捨て手袋の着用か、使用後に速やかに手を洗うなど、匂いが残らないようにしなければならない。

――

セクション 3.4 - アロマを入れる容器について

アロマを入れる容器には、ガラス製を除いたすべての素材が使用される可能性がある。具体例としては、アルミ製クリームケース、タンブラー、スーツケース、ツールボックス、ボストンバックなどが挙げられる（写真参照）。

				
アルミ製クリーム ケース	タンブラー	スーツケース	ツールボックス	ボストンバック

――

セクション 3.5 - アーティクルの設置場所

アーティクルは、審査員がレベルに応じた適切な難易度となるよう配慮して設置する。複数のアーティクルを設置する場合でも、過度に難易度が上がらないよう留意される。

――

セクション 3.6 - ブリーフィング

搜索開始前には審査員によるブリーフィングが行われる。この際、リードの有無、アークルの数（必要な場合）、制限時間、搜索終了の告知方法などが説明され、必要に応じて基本ルールの説明もなされる。ハンドラーは審査員に質問することができるが、審査員は必要に応じて回答を拒否できる。また、ブリーフィングには犬を伴って参加することはできない。

セクション 3.7 - 待機

ブリーフィングを終えた参加者は、競技会事務局が指定する待機場所にて待機しなければならない。競技は定められたタイムスケジュールに基づき進行し、参加者は待機係の指示に従い、指定の順番で搜索エリアに入場する。出番を待つ参加者は事務局が指定する直前待機場所にて待機し、競技が終了した参加者と出番前の参加者が接触しないよう、動線および待機場所を分けて運用する。すべての参加者は係員の誘導に従って行動しなければならない。

待機エリア名	対象	目的
A：待機エリア	ブリーフィング後の全員	ブリーフィングの為の集合、搜索までの待機
B：準備エリア	次に出番の1～2 チーム	呼出し後、犬を伴って搜索への準備をする
C：終了エリア	搜索を終えた参加者	出番前のチームとの接触を避けるため

セクション 3.8 - 搜索エリアへの入退場

搜索エリアへは必ずリードを装着して入場する。その際手荷物などは搜索エリアに持ち込んではならない。指定されたスタート位置に進み、審査員の合図でリードを外す、あるいはロングリードに付け替える。審査は搜索エリアに入った時点から開始され、終了後は速やかにリードを再装着し、スタッフの指示に従って退場する。その後は終了待機場所で待機し、出番前の参加者との接触を避けること。

セクション 3.9 - タイム計測

タイム計測は、犬がスタートラインを越えた時点で開始され、審査員およびタイム係により記録される。アーティクルの数が事前に告知されている場合、最後のアーティクルを発見し、ハンドラーがその旨を告知した時点でタイム計測は終了する。数が不明な場合には、ハンドラーが「検索が終了した」旨を口頭で審査員に伝えることで計測が終了する。チームが検索を継続している場合は、タイムも継続される。

セクション 3.10 - 検索中のハンドラー

インテリアサーチ

検索開始後、ハンドラーはスタート位置に留まらなければならない。ただし、犬のアラートに応じて審査員の許可を得た場合には検索エリアに入ることができる。その後、犬が再び検索を始めた場合は、速やかにスタート位置に戻らなければならない。

エクステリアサーチ

検索開始後、ハンドラーは犬の動きを妨げないよう配慮し、できる限りリードに張力がかからない状態を保ちながら犬に追従しなければならない。

セクション 3.11 - アラート

犬がアーティクルを発見したと判断した場合、ハンドラーは「アラート」と発言するか挙手により審査員に告知する。審査員は正解・不正解をその場で伝える。不正解ごとにペナルティーが課される。アーティクルが犬の触れられない場所に設置されており、犬がその近くでアラートを示しているが在処が明確でない場合、審査員はハンドラーにアーティクルの場所を指差し等で明示するよう求めることがあり、ハンドラーが示した場所にアーティクルが存在する、または匂いが集中していると判断された場合は、正解とみなされる。

セクション 3.12 - 再検索

複数のアーティクルが存在する場合、再検索の開始方法は、以下のとおりとする。

【ハンドラーがスタートエリア内に留まる場合】

アラートに対する審査員の判定が正解であった場合、ハンドラーはスタートエリア内に留まったまま、犬に再検索の指示を出すことができる。

また、一旦犬をスタートエリアに呼び戻した後、再検索の指示を出すことも可能である。この場合、スタートエリア内で犬にご褒美を与えることが認められる。

【ハンドラーが検索エリア内で犬にご褒美を与える場合】

アラートに対する審査員の判定が正解であった場合、ハンドラーは検索エリア内に入り、犬にご褒美を与えることができる。

この場合、再検索は、以下のいずれかの方法で開始するものとする。

- (1) ハンドラーが検索エリア内で犬に再検索の指示を出す。この場合、犬が検索を再開した後、ハンドラーは速やかにスタートエリアへ戻らなければならない。
- (2) ハンドラーのみがスタートエリアへ戻った後、犬に再検索の指示を出す。
- (3) ハンドラーが犬を伴ってスタートエリアへ戻った後、犬に再検索の指示を出す。

既発見のアーティクルへの再反応

再検索の開始後、犬がすでに発見したアーティクルに再び反応したとしても、当該反応自体はペナルティの対象としない。

セクション 3.13 - 作業終了の告知

アーティクルの数が事前にハンドラーに知らされている場合は、最後のアーティクルを告知した時点で作業は終了となる。アーティクルの数が知らされていない場合は、ハンドラーがすべてのアーティクルを告知し終えたと判断した時点で、検索終了の意思を口頭で審査員に伝えなければならない。

セクション 3.14 - タイムオーバー

制限時間を超過して失格となった場合、審査員は未発見のアーティクルの位置をハンドラーに伝える。ハンドラーは犬をその場所へ連れて行き、ご褒美を与えることができる。

セクション 3.15 - 犬へのご褒美

ハンドラーは、犬へのご褒美(トリーツ)を携帯して捜索を行うことができる。アラートが正解であった場合や審査員が解答を開示した場合には、犬にご褒美を与えることができる。ただし、ご褒美は、ポケットや、ご褒美を入れるためのポーチまたはファニーパックなどの補助用具の中に仕舞われていなければならない。

なお、トリーツを使用する時は、食べ物や唾液で捜索エリアを汚さないよう十分注意しなければならない。

セクション 3.16 - アーティクルの場所

同一レベル内においては、原則としてアーティクルの隠し場所はすべての参加犬に対して共通とする。ただし、同一レベル内での重複出陳（1人最大3頭まで）がある場合は、1人につき1頭となるように、そのレベル内でグループ分けを行う。

グループ分けは申込締切後に抽選で決定され、各グループには同一難易度となるよう調整されたグループごとに異なる隠し場所が設定される。残臭の影響がすべてのグループに等しく及ぶよう、あらかじめ全てのグループの隠し場所にアーティクルを設置し、競技開始10分前に取り外す。

レベルが変わって隠し場所を移動する際には、10分間放置したのちに最初のチームが捜索を開始する。前のクラスの隠し場所の消臭は行わないため、上位レベルになるほど残臭の影響が増し、相対的に難易度も高くなる。

なお、捜索エリアが排泄やよだれ等で汚れた場合は、消臭液で速やかに拭き取ること。

セクション 3.17 - 会場でのマナー

競技参加者および見学者による競技中の撮影は一切禁止とする。ただし、競技会運営事務局が記録・広報等の目的で撮影を行う場合がある。参加者は、自身が出場するレベルの競技を見学することはできない。参加していないレベルの競技を見学する場合は、競技会主催者が指定する方法に従って行わなければならない、大会によっては見学自体が認められないこともある。

セクション 3.18 - 禁止事項

会場内へのアロマの持ち込みは禁止とする。検索エリア外にいる者は、出番を待つハンドラーに対して検索環境に関する情報を提供してはならない。また、検索を終えたハンドラーは、同一レベルの出番を控えたハンドラーと会話を交わしてはならない。加えて、会場内にいるすべての者は、検索中のチームに対し影響を及ぼす可能性のあるいかなる行為も行ってはならない。

*バーチは当面の間、マンデイムーンの〈スイートバーチ〉を使用する。

第4章 - 採点

成績は、制限時間内にすべてのアーティクルを発見した上で、ペナルティーが少なく、かつタイムが早いチームが上位となる。ペナルティー数が同じ場合は、タイムの早いチームが上位となる。

OPDES ノーズワークチャンピオン制度

競技会の開催地や規模にかかわらず、ノーズワーク 3 度において以下の条件を満たすことでポイントが付与される。

累計 30 ポイントを獲得した犬には「ノーズワークチャンピオン」の称号が与えられる。

ポイント獲得条件：

- ・ペナルティーなし、かつ制限時間の半分以上で発見：5 ポイント
- ・ペナルティーなし、かつ制限時間内に発見：3 ポイント

セクション 4.1 - 制限時間

制限時間は、各レベルに設定された標準制限時間を参考に、当日の搜索環境に応じて審査員が最終的に決定する。

ノーズワーク 1 度	標準制限時間	2 分
ノーズワーク 2 度	標準制限時間	2 分
ノーズワーク 3 度	標準制限時間	3 分

セクション 4.2 - 合格、不合格、中止、失格

■合格

以下の条件を満たした場合に合格とする。

- ・1回の検索で累計4ペナルティー以下
- ・すべてのアーティクルを制限時間内に発見

■不合格

検索中に、ペナルティー数が累計5ペナルティーとなった時点で、当該の検索は不合格となる。ただし、制限時間内は検索を継続することができる。

■中止

1回の検索で累計6ペナルティーとなった時点で検索は中止となる。中止となった後に解答を開示するか否かは、その時の審査員の裁量によるものとする。審査員が解答を開示した場合、ハンドラーは犬をその場所へ連れて行き、ご褒美を与えることができる。また、審査員が解答を開示しない場合には、チームは速やかに検索エリアから出なければいけない。

■失格

以下に該当する場合、失格となる。(失格後の解答の開示の有無などは、別途記載)

- ・タイムオーバー (セクション 3.14)
- ・セクション 4.4 に該当する失格行為

セクション 4.3 - 検索上のペナルティーとなる行動

1 ペナルティー

- ・ハンドラーに飛びつく
- ・追加の指示

2 ペナルティー

- ・スタートしない (サブタイマーで1分以内)

3 ペナルティー

- ・審査員に吠える

- ・誤認アラート
- ・審査員の合図を待たずに搜索を開始した
- ・ハンドラーが積極的にアーティクルを探す
- ・審査員の許可なく犬に触る

—

セクション 4.4 - 失格となる行動及び行為

- ・アーティクルに対して必要以上の接触
- ・スタートしない（1分以上）
- ・すでに発見したアーティクルに留まり、再搜索に向かわない（1分以上）
- ・搜索エリア内のオブジェクトや、ものを壊す
- ・過度の恐怖サイン
- ・エクステリアサーチで犬の身体が完全に車の下に入る
- ・アーティクルからそれた犬を引き戻す
- ・作業中の犬に過度な干渉をする
- ・危険行為
 - ーエクステリアにおいて、審査員の許可なく犬のリードを外して搜索をさせる
 - ー搜索エリアの形状を変える
 - ー搜索エリア内のオブジェクトを動かす
 - ー審査員の指示に従わない
- ・ハンドラー自身の棄権の申し出を審査員が承認した場合
- ・不適切、または理解不能な犬の行為
 - ー人、犬、物に損害を与えかねない
 - ー体調不良を示す
 - ー排便・排尿
- ・犬への不適切な褒美（例：審査員の許可なく報酬を与えた。音の鳴るおもちゃ）
- ・スポーツマンシップの欠如
 - ー犬に体罰をあたえる（声を荒げる、または態度や表情で圧力をかける）
 - ー敷地内での破壊行為
 - ー過度のリードの使用
 - ー審査員、大会事務局に対する無作法な行為。
- ・セクション 3.1 に記載された首輪や訓練補助道具を使用

上記に記載されていない行動については、審査員の判断によりペナルティーの有無および

程度を決定する。

上記のペナルティーにより失格となった場合には、速やかに搜索エリアから退場しなければいけない。
